麻生学園小学校

校長室だより

NO　１０　　発行：校長　　Ｒ７．６／１６(月)

学校の教育活動から

○「先生、チョウが飛び立ちました！」

１１日（木）の給食の準備時間、３年生のＫさん、Ｓさん、Ｒさんが職員室に飛び込んできました。「日永田先生（理科専科）、チョウが飛び立ちました！」と興奮した様子です。

３年生の理科の学習では、ツマグロヒョウモンの幼虫から蛹、そして成虫へと成長している過程を実際に飼育しながら観察を続けています。蛹から羽化し、チョウとして羽ばたき空を飛ぶ姿に感銘を覚えたのでしょう。また、３年生の子ども達は、このチョウに限らず、去年から名前を付けて育てているザリガニを３年生になっても可愛がっていて、生き物への愛情にあふれています。子ども達は生き物のこうした観察や飼育を通して、生命の不思議さと命に対する畏敬の念を感じていることでしょうす。

感じたことから

○私的なことですが･･･

私自身のことで大変申し訳ないのですが、先週、私の娘が男の子を出産しました。すなわち･･･私はお爺ちゃんになっちゃったのです。私にとっては初孫です。娘は産まれたばかりの我が子を抱いた喜びに、こらえ切れず涙していました。ただ、それ以上に号泣していたのが娘のご主人（義理の息子）です。喜ぶ二人の姿がまたいいものだなと、お爺ちゃん目線で見ていました。

私もこの手に初孫をおそるおそる抱かせてもらったのですが、娘が誕生した時のことを思い出しながら、その小さな小さなお顔や手を見つめました。『この小さな手がこれからどんなことを経験し、どんな大きな手になっていくのだろう･････』『胎児だったこの子がこの世に登場し、これから何年も生きていくんだなぁ･･･。いいことがたくさん待っていてくれるといいのだけれど･･･』『とにかく、幸せだといえる一生を送ってほしい･･･』等、あれやこれやと考えてしまいました。

さて、この麻生学園小学校で育つ子ども達も、小さな小さな姿でこの世に生を受け、今、いろいろなことを経験している真っ最中です。産まれたときの手と比べると、しっかり大きく、できることも格段に増えた立派な手になっていっています。一生のうちの一部ですが、子ども達の大事な人生に関わらせてもらっていることに感謝するとともに、強い責任を感じます。“勉強を分からせてあげること”“友達と楽しい経験がたくさんできること”“困難に出会ってもそれを克服できる強さをもてること”･･･そうしたことが本校での充実した毎日となり、一人一人の一生の“幸せの一部”となっているのなら幸いです。

保護者の皆様もお子様が産まれたそのときに、これから始まる一生に思いを巡らせ、誰よりも強くお子様の幸せを願ったことでしょう。小さなお子様は自分自身では判断できないことも多く保護者の皆様が、悩みながら様々な決断をされていらっしゃることと思います。本校を選択していただいたこともその一つかと思います。そして、これからもきっと悩み続け、お子様の幸せを第一に考えた選択を続けられることでしょう。こうした保護者の皆様の姿は、きっとお子様が立派に成長した際に、心からの感謝として振り返られ、次の世代、次の世代へと“子どもの幸せを願う気持ち”は受け継がれ続けていくことと思います。